

神戸のこと 手当り次第

淀川長治
え・中 西 勝



「そんなアホなこといわんといとん。わて、あのととき、ちゃあーんと聞きましたで、あんまり、ひとバカにしなはんな」

電話口で目を泣きはらしてお染めはんが旦那に、わめきたてていのを聞いた。うまいこと言われ、そのあとあっさり捨てられたんやなア……子供なりに私はそれがわかって芸者てアホやなアとつくづく思ったのが、やがて中学の一年生のころになると、旦那にだまされて、生れた子供を、まあこれでもええやないかと、ミカン箱にその赤ん坊の死体、生れてすぐ死んだその小さな肉のかたまりを、寝かして白い布を上からかけるとき、その芸者の目からポタポタと涙があふれるのを見て、こんどは芸者て可愛想やなア、そう思うようになつて、さんざいなんて一生すまい、そう決心したものだ。そんな芸者町の、置屋（おきや）に生れ育ちながら、このあいだ、ある呉服屋のパンフレットに、検番と書くべきところを見番と書いて、それもそのパンフレットが送られてくるまで気がつかなか

ったとは、自分もよっぽど当今はやりのあて字病に感染したということと併せて、ああ、あの西柳原時代ももう私の記憶から遠くなったものと、ふんわりとさびしくもなったものである。

×

西柳原から会下山に移り、その会下山から熊内四丁目に移るあいだの二カ月ばかりを、会下山館という今でいえば団地住宅のはしりのようなアパートに移り住んだことがある。

会下山公園の入口の登りかかった坂道のかたわらにあつて、ここからは新開地の湊川公園にはひと走りで行けるので私にはとても便利なところであつた。

ここには中庭の植えこみの向うに別棟の当時としてはなかなか洒落れた食堂があつて、いつも四、五人の客がたむろして無駄ばなしに花を咲かせていた。この洋食がまた実においしい。私は昼も夜もよくここに馳けこんだのであるが、あるとき「あのひと、ちりがんやわ」と若い男がそんなことを相手の二人の男に話している。「そやけど、かたつぼのほうは、えらいちんちりがん」そこでこの三人が腹を抱えて笑いころげたのであつた。この三人はひと目であれだということもわかる。体が大きくて腕も太い、まるで兵隊のようなのが金齒を光らせてニヤリと笑つて和服の片袖をまくつて二の腕をによつきり丸だしにしながら女形のような手つきで手先きを振つた。他の二人は小男で、そのうちの一人がリングをナイフでむきながら、その手を止めて片ほうの手を「いやーねえ」というかっこうで口にもつてゆく。聞くともなく聞いているうちに「ちりがん」が美男子で、「ちんちりがん」がぶ男だということが解つてきて、うまいこと言やはると私はひとりで感心したものだつた。

×

熊内に移つてからは家の前がピーコックさんというイギリス人、すこし行くとハリールというドイツ人。そしてそのハリールという家には私とおないどしくらいの息子がいて、いつのまにかそのハリール君と仲良しになつて、アメリカの映画雑誌を五、六冊かかえて



は持つて行って、その解らぬところを赤くしるしをつけて教えてもらったものだった。この家に行くとき家じゅうが犬の匂いとバターバターの匂いがして、これが西洋人の匂いというもののなのだろうかと妙なところで感心したりした。もつともこのハリールの家は犬と猫と人間がおんなじくらしいの居住権を持つているような家で、椅子の上、テーブルの上、いたるところに大きな犬や猫が、がんと頑張つて押せども突けども立ちあがるけはいがない。

ある日、私はハリール君の胸に妙なしるしのついたバッヂを見たそれは地蔵さんのマークそっくりで、それがヒットラー青年クラブのバッヂと知つて「あんた、ヒットラーを好きなんですか」この人と話をするときには日本語で話すことを許さない、私がすこしでも英語会話が上手になるようにと、いつも会話は英語にきめ、日本語を口にするといくらいくらの罰金を支払うことになっていたのである。そこでそう英語で聞くと、ハリール君、たしかあのころ二十二歳くらいだったと思う、その彼が「ハイ、ヒットラーはとても偉い人なんですよ、私も私の姉さんも、みんなヒットラーの青年クラブにはいつているのです」そう英語で答えるときの彼の顔には純粹な美しさがあふれ、いかにもそれを誇りとしている様子があつた。

そのハリール君に私はアメリカの映画雑誌を見せながら、ここの意味はこうなんでしょうか、ここは、こうなんでしょうかと、ただどしい英語できくうちに、モリス・シュヴァリエの「今晚は愛して頂戴な」Love Me Tonight やハロルド・ロイドの「ロイドの活動狂」Movie Crazy やジョン・フォード監督のロナルド・コーン・主演の「人類の戦士」Arrowsmith あたりになると、ハリール君はすっかりアメリカ映画ファンの生地をまるだしにして自分から日本語になつてしまつて、得意気に私に話して聞かすのであつた。ジョン・フォードの新しい映画をうれしげに語り教える彼の胸にヒットラーのマークのバッヂが輝いていたとて、そのころ、私はなんとも不思議には思つてもみなかつたのであつた。

(映画評論家)

連載随想第四回

ベニスの絵

阪 本 勝

え・小 松 益 喜

海外旅行がずいぶん盛んになったこのごろでも、女性の身で外国に旅行するものはまだきわめて少ない。外交官の夫人になるとか、海外の商社に勤めている男性を夫にもつとか、ごく限られた境遇に在るものでなければ、女性が外国にゆける機会はなかなかない。

そこでわたしは永年考えてきた。じぶんが生きているあいだに、ひとりむすめの小弓^{こゆみ}を外国につれて行ってやりたい。それを今生の思い出として死の近づいてきたところに、愉しかったわが子との

外遊の記憶を心のなかで繰りかえして思いうかべ生と死の境の感傷としたい……と。

さいわい一昨年の夏、スイスのM・R・Aの本部から正式の招請をうけた。たまたま私自身も、いわゆるニュータウンの研究のためストックホルム、ロンドン、ローマなど、ニュータウンの発達している各都市を視察したいと願っていたので、この機会に、小弓をつれて外遊する決心をし、七月初め北極まわりで日本を出発した。もちろんかの女の夏休みを利用したのである。

父とむすめは、四十五日間、十三ヶ国を歴遊した。あこがれのハイデルベルクへも行ったし、パリの夜の灯も見だし、ナイル河畔にも立った。しかしいちばん感傷にふけたのは、ベニスの数日であった。

水の都といわれるこの都会で、バスと呼ばれるのは小型の船である。タクシーというのは、いわゆるゴンドラだ。ゴンドラは水上いたるところを漕ぎまわっている。まさに都会のタクシーそのままだ。

ある日、旅館のまえにいたゴンドラを二時間契約して、もつともベニスらしい裏水路を遊覧したいと注文した。つまり絵などによく描かれているあの狭い暗い水路である。紺の横縞のシャツを着た、背の高い、人のよさそうな老水夫は私の希望どおり、伝説的な裏水路深く、のんびりと漕ぎまわってくれた。

小弓は舷側にもたれて、初めて見る異国の不思議な風物を好奇の目を輝やかせて飽かず眺めていた。十七才の少女の胸にどんな感懐が往き来したであろう。父はその姿を名状できないいとしさ

と可愛さの思いで眺めていた。こういう感傷を
「愛し^{かな}」と詩歌では表現するが、まずもつとも適
確な言葉だと思う。父はかかる感傷の世界をさま
よいつづけていた。これがこの世で父と子がベニ
スで遊ぶ最初で最後の機会であろう。いつかは



この子をのこして、父はあの世に旅立たねばなら
ぬ、そしてこの子も老いてゆかねばならない、な
どと考えて、ひそかに指の先でまなじりの涙をぬ
ぐった。それは喜びや愉しみとはほど遠いせつな
い哀傷の思いであった。

日本に帰ってきて、ベニスでとったカラーフィ
ルムを何べんかうつしてみた。父が子の横姿や後
姿を愛し^{かな}げに見つめているさまがそのままによく
とれていた。小弓はうれしそうに、手をたたいて
じぶんの写っているフィルムを飽かず見つめた。

父の胸には中老の涙、子の心には青春の歓喜
——四十四才も齢のちがう親子の心の距離とい
うものである。だがそれでいいのだ。それがしぜん
なのだ。

欧州旅行からほぼ一年を経た去年の八月、木庭
喜久男という画家が知事室に現われた。初対面の
人だし、誰の紹介状も持っていない。姫路市に在
住するものだが、アトリエを建てたいので絵を買
っていただきたいというのである。とつぜんの話
なのでちょっと面くらったが、ともかく絵を拝見
したところ、何とそれがベニスの絵であった。し
かもわたしたち親子がゴンドラで通ってはつきり
記憶に刻みこまれている狭い水路の写生画であつ
たゴンドラがゆく水路そのものは暗い日陰だが、
T字型のつきあたりには明るい午後の陽がさして
いる。それも記憶にはつきり残っている。

とっさに「ほしいな」とわたしは思った。一
九六〇年製作の十号の作品で、やや高価であつた
が、わたしはその場で譲りうけた。絵はすいぶん
たくさん持っているし、いまさら初対面の画家か
ら買う義理はないのだが、ほしいという気持が瞬

間に湧いたのは、溺愛盲愛のせつなさに父に心を濡らしつづけるひとりむすめとゴンドラで通ったなつかしい水路——おそらくふたたびは通れないあの水路の風景画を生涯わが身辺においておきたいと思ったからだ。

それからもうひとつ、その瞬間に考えたことがある。オレが人生の終末に近づいて、この世とのわかれの床についたとき、この絵を病室の壁にかけて、終日眺めくらしたいのだ。

そしてかつて小弓と遊んだ水都の思い出を、繰りかえし繰りかえし胸中で味わいしめ、もうろうと消えてゆくあわれに美しい回想にふけりながら、生から死へ架せられた橋を渡ろう——わたしはそう考えた。そんな考えが心をゆさぶったのは、ほんの三十秒か一分ぐらいのものであったろう。そんなことで無性にその絵がほしかったのだ。

わたしは今までずいぶん絵を買っている。しかしほとんどの場合、買おうか、買まいかと、思い迷ったものだ。ベニスの絵のように即決購入した例はいまだかつてない。わたしはこの絵に神秘的なもの、運命的なものを感じる。

今その絵はわが家のサロンの壁にかかっている。多くの来客はその絵をちらと見るが、誰ひとりとしてその作品の由来を知るものはない。誰の作品かとさく人もない。またわたし自身は作者の木庭氏とその後一度も会っていない。絵は悄然とサロンの壁にかかり、わたしだけがその作品にひそむ秘密を知っているのだ。妻も知らない。小弓も知らない。わたしだけの秘密なのだ。

わたしは過去に三たび外遊しているが、奇妙なことに、永年のあこがれの的であったハイデルベルクとベニスを訪れたのは一昨年初めてである。しかも尊い最初のたのしみを十七才のひとりむすめとともにしたのである。故都、学都、ハイデルベルクの夕まぐれ、フリードリッヒ橋上にたたずんで、静かに流れる美しいネツカ川を眺め、丘上の古城や大学を見わたしたとき、わたしはわが身の幸福の頂点にあると思った。わたしはむすめの肩を抱きながら、故都のたそがれのけはいを心ゆくばかり味わった。たえなる野鳥の声がいたるところからきこえた。

「お父ちゃん、なぜそんなにハイデルベルクが好きなの」

と、むすめがわたしにいったくらい、わたしは恍惚のきわみにさまよっていた。

それから何日かのち、水都でむすんだ夢幾夜、たのしく、せつない父と子の明け暮れであった。

こんなしあわせがあるだろうか。わたしはしみじみ思う。わたしにどんな不幸が過去にあったにせよ、またこんごどんな不幸がやってくるにせよ、生涯のうちにうら若いわがむすめとともに、雲烟万里のとづくにの旅をしたという一つのことのでわたしの生涯は幸福だったといえる。百の不幸があったなら、百一の幸福がわたしにある。千の不幸があったなら、千一のしあわせがわたしにある。天に謝し、地に謝し、人に謝すべきだ。ベニスの絵よ。わたしがいのちの果てに立つとき、わが壁面を飾っておくれ、妻よ、むすこよ、その妻よ、小弓よ。秋の夜ながにそこはかとなくつづるこのふみを、かつ笑い、かつおかしがり、かつ哀れとも読み捨てておくれ。父というものは永遠にさびしいものだが、また人に知られぬ心のしあわせもあるのだよ。

(隨筆家)



特 選
ハンドバック
専門の店

シラサ

元町2 ③ 0813



MADE IN
WEST GERMANY



ネクタイの

元町バザー

神戸・元町



紳士服飾・婦人服飾

セリザワ

紳士服飾・大丸前(33900)
 婦人服飾・大丸前(31695)
 センター街(36114)
 姫路やまとやしき(231221)

* 優雅な気品を
 あなたにそえる
 ミンクのストール



三毛皮店

三宮・国際会館1階
 TEL ② 3327

連載第九回

■ 神戸とエトランゼ ■

神戸っ子 ジョン・ブル

陳 舜 臣



神戸弁でユーモラスに話されるムーア氏

セオドル・ジェー・デヘーズムーアさんは、ことし六十一才になる。神戸で生まれ、ほとんど神戸ですごした人だが、典型的なイギリス紳士である。

この典型的英国紳士なるものを、失礼だがムーア氏を例にとつて、説明してみよう。

他人の迷惑などには一切構わず、自分がこうと思つたら、はっきりイエスはイエス、ノーはノーと言い切つて節をまけない。

もちろん、流行を追わない。ムーアさんは服をつくつても、濃紺だけである。暑いときはシングル、寒くなる

とダブルにかわるぐらいで、色はかわらない。

「この色やつたら、五十年まえの古セビロでもわからんさかいな」と言つてのける。

散髪は、亡くなったお父さんのヒイキの散髪屋に、いまもつて来てもらつてゐる。むろん、むこうも代はかわつてゐるが。

かみついたらさいご、死んでもはなさないブルドッグ的根性である。だが、頑固は頑迷ではなく、保守は退嬰ではない。

便宜上、ムーアさんと呼ぶが、正式にはデヘーズムーアと言わねばならない。彫刻家のムーア、随筆家のムーア、バイロンの友人であった詩人のムーア、私の知っているムーアはみんなアイルランド出身だ。アイルランド独特の姓かどうか知らないが、神戸のムーア氏もアイルランド出身である。しかし、たんなるムーアでなくデヘーズムーアである所に注意されたい。泰西有識故実に通じている人なら、この名をきいただけで、貴族だということがわかるだろう。

ムーア氏のお父さんは、第一次大戦後に神戸で亡くなっているが、この人こそいちど会ってみたい魅力のある人物だったらしい。

三十二才、海軍大佐として英国東洋艦隊在職中、日本へ巡航してこの土地にすっかり惚れこんだ。とくに神戸が気に入った。

「おれは、ここに永住する」

ジョン・ブルである。言い出したら、あとへはひかない。軍職をボンと投げうって、神戸に住みついた。明治三十年代のことである。

神戸に住んで商売でもやろうとしたのかって？ それでは下司のカングリである。そんなことを考えるのは、ふるき良き時代のイギリス貴族を知らない人だ。

ムーア氏の父上は、三十五トンのヨットを仕立て、神戸を中心として、海のうえの逍遙に日をすごした。ライセンスを受けて英国海軍旗をマストにかかげ、瀬戸内海に遊んだり、遠く上海へ出かけたりしたものだ。

ただし、信心ぶかい人なので、日曜日にはかならず教会へ行く。だから、どんなに遠くへ出かけても、土曜日までは、ちゃんと神戸北野町の自宅へ戻ってきた。

教会まいりには、子供はぜんぶ、海軍軍人の父上好みのセーラ服を着せられた。

「それが、恥ずかしくってねえ」と、ムーアさんは當時を回想して、おっしゃる。

当時のムーア坊やは、稀代のやんちゃ坊主だった。ビールを盗んでのんだのが六才のときである。いたずらのかぎりをつくして、悪名、北野界隈にかくれもなかった。北野町三丁目の交番で、巡査が製帽とサーベルを盗まれたことがある。

「さては、またムーアの小伴の仕業だな」

巡査はおつとり刀で——いや、サーベルは盗まれていたから丸腰だが——ムーア邸にかけつけた。幸いムーア坊やは病気でウンウンうなっていたので、アリバイがあった。しかしムーア坊やでないとすると、こいつは本物の泥棒にやられたのだと、そのお巡りさんは、あらためて青くなったという。

このエピソードは、なにかあれば「ムーア坊や」と、机つきだったことを物語っている。

じつは、この腕白こそ、ジョン・ブルの下地なのだ。英国紳士の製造所であるパブリック、スクールにおける生徒のいたずらぶりのすさまじさは、小説でもときどきお目にかかる。制裁、ケンカ、スポーツ、それらを通じて、ジョン・ブルの負けじ魂が養成されるのだ。ムーア氏は、それらを神戸で身につけた。これは、海軍軍人であった父上の配慮があったのではないかと思う。

父上が居を神戸に定めたあと、日露戦争がはじまった。日英同盟時代だから、日本海軍と友好的だったのはいうまでもない。ムーア家と日本海軍のつき合いは広く、東郷元師とも親交があった。これが後年ムーア氏を助けることになるが、それはあとの話である。

宮内省からも、在留英国貴族として、大正末期までは毎年アイサツがあったそうだ。ムーア家先祖には、ナポレオン軍と戦った著名なムーア将軍もいる。フランス軍をスペインに牽制して、ウエリントン将軍をしてヴァーテルローで勝利を獲得させた陰の力となった人物である。ムーア氏の父上は、貴族であることをけっして鼻にか



好物の竹葉亭のうなぎの白焼に舌つづみを打つムーア氏と夫人

けなかった。むしろ、それをかくした。なにしろ惜しげもなく、将来の提督につながる軍職をなげうつほどだから、型破りというほかに、表に出たがらない性格もあつたらしい。

ムーア氏は、自分の家の家柄を父上からきいたのではない。後年帰国したとき、家の顧問弁護士にきいて、はじめてくわしく知ったものだ。お父さんの血をムーア氏もうけついでいる。氏も血統を誇らず、庶民生活を愛し



腕白時代から次々と思い出の話はつきない、左より陳氏・ムーア氏・夫人

たし、いままなお愛している。

「平野にソバのうまい店があった。四宮にはシツボクと茶碗むしのうまい店があって、わざわざそこへ行ったもんや」

昔のうまいものの店にも通曉していて、そんな所で、日本の庶民と肩をならべ、湯気を吹きながら、ソバやうどんをすすった。

乗馬、オートバイ、ドライブ、登山の愛好者で、とく

に神戸の裏山にはくわしい。ちなみに、神戸の裏山には外人の名づけた地名が多い。ここに数例をあげると、

トウエンティ・クロス (二十渡し)

ケツトル・ヒル

(鍋蓋山)

神戸クラブの裏にある首吊り山——ハングマンス・ヒルは、ムーア氏の父上の命名である。むかし、首吊りの多かった所らしい。

「再度山みたいになっちゃう山に、ドライヴ・ウェイつけるなんて、けったいな話や。やっぱり旧登山道のほうがええ。むかしは、再度山大龍寺境内の善助茶屋まであの道を一年三百三十回ぐらい登ったもんや」

こんなふうに、少年時代と青年時代を神戸ですごしたのち、ムーア氏は日本商品の対中国輸出に従事する。上海をはじめ、中国各地にも滞在した。

上海にいたとき、それも上海事変のころのこと、店のなかで、ちょうど受註したキャセイ・ホテルのボーイの制服を箱づめにしていたら、とつぜん、銃声とともに、日本の陸戦隊員が闖入してきた。

「便衣隊がここにいるだろう？」

と詰問する。中国人従業員はみな身許がはっきりしているの、ムーア氏はそんな者はいないと、流暢な日本語で答えた。

「こいつ、スパイだな」

日本語をしゃべる外人は、頭からスパイ扱いである。とうとう憲兵隊のような所へ連行された。だが、ここでムーア家の日本海軍との交誼が彼を助けることになった派遣船隊司令長官野村大將をはじめ、江田島出身の将校たちが、ムーア氏の父上を知っていた。

で、危ういところを釈放された。

上海から神戸へ帰って、ムーアさんは日本婦人と結婚した。以来、ずっと神戸に住んでいる。戦争のあいだ、神戸にいても外人にはいろんな面倒ごとがあった。しかし、ムーア氏が海軍省の神戸出張所に頼むと、たいていのことは円満に解決されたそうだ。

「だから、太平洋戦争がおこっても、私は帰国しませんでしたよ」

ムーア氏は、神戸っ子である。

奥さんがなにかおっしゃっても、

「関東人が何を言うか」と軽くいなす。

英国に帰っても、むしろ旅行者のような気もちではあるまいか。おなじ兄弟でも、十一才のとき帰国した姉さんは、いまはまったく日本語を忘れている。先年、ムーア氏が帰国したときそのお姉さんに会ったら、

「一つだけ日本の歌をおぼえている」

といつてうたいだしたのは、『鳩ぽっぽ』でもなければ、『おてつないで』でもない。日本勝った、ロシア負けたの歌だった。日露戦争の直後は、そんなわらべ歌が一世を風靡したのであろう。

風土は人間の性格に影響するが、完全に変わることはできない。微妙な混合や、平行がそこにあられるものだ。

ムーア氏は骨の髄まで英国紳士である。が、同時に、われわれの周囲にざらに見かける『神戸っ子』でもある貴族であると同時に、庶民である。

イートン製ならぬ、神戸のジョン・ブルを、ムーアさんに見る思いがする。思わぬ長話になって、「どっこいしょ」と、ムーア氏は立ちあがった。脚が痛そうである。やはり、日本ふうの畳に慣れないのかと思ったら、そうではなかった。

「若いころ、姫路へ馬を乗りに行つて、ころげたんやそこが、まだ痛みよる」

苦が笑いをしながら、ムーア氏は夫人をかえりみて、じつにやさしい表情をみせた。

大切なことを言い忘れた。——ジョン・ブルは、女性を徹底的に大事にする。騎士道の伝統なのだ。

ムーア氏のみごとな白髪を見て、ほほえましくなった。

第三の美容



EYEGLASSES CRATE THE THIRD BEAUTY

ハイファッション のめがね

神戸眼鏡院

元町3・電③3112-3・③91443
③0551 (貿易部)

〈神戸クーポン歓迎〉

まごころこめた贈り物に

70年の伝統の味に新しい味覚をくわえてつくりあげたかずかすの銘菓…。
すばらしい風味と気品のあるデザインはどなたにも喜んでいただけます。
お気づかいのお歳暮ご贈答に風月堂のお菓子をとお選びください。

神戸



風月堂

元町3丁目 TEL③695・696



神戸遊戯誌

3



日本婦人として最初の

ホール・イン・ワンをきめた西村夫人

一六甲ゴルフ・コースで一

ゴルフ

③

青木重雄

一九〇三年（明治三十六年）ごろ、すでに六甲山上のコースで、西洋婦人がゴルフをはじめていたから、ことしでちょうど六十年目になるわけだ。日露戦争が終わった一九〇五年の九月九日に、同コースで神戸倶楽部の最初かつ日本最初の婦人競技が行なわれたが、むろん西洋婦人ばかりで、マッケー夫人が一三四で優勝した。その後一九三〇年ごろまで毎年婦人競技が行なわれたが、日本の婦人が初めて同コースでクラブを握ったのは、一九〇七年の小倉末子さんが最初である。一九一九年（大正八年）に六甲でゴルフをした住友孝子夫人が、関西での日本婦人ゴルフの第二号だった。同夫人は夫君とともに一九一七年に渡米して、同地でゴルフを習って帰ってきたものだった。

だが、一九二三年ごろには、関西では関東に先んじてすでに数人の婦人ゴルフヤーが六甲や舞子でゴルフを始めており、神戸婦人ゴルフ倶楽部の一九二五年度の婦人ハンディキャップ・リストには、西村まさ（西村貫一氏夫人）九鬼忠子、同とみ子、山口美代（山口関西信託社

長夫人）野田喜見（野田敷島紡績社長夫人）の五人の名がのっている。小倉さんや住友夫人の頃と違って、この頃になると、日本の婦人ゴルフヤーの技術もうんと向上して公式試合が行なわれるようになっていた。なかでも、一九二二年から、お茶も長唄もやめて、ゴルフを習い出した西村夫人の進境はすばらしかった。同夫人は貫一氏のすすめではじめは自宅の庭でまねごとをやり、つづいて青木や鳴尾のゴルフ場へ通って腕を磨いたが、「同じやるなら、日本一の婦人ゴルフヤーになれ」と貫一氏からはげまされた甲斐あって一九二五年夏に行なわれた神戸ゴルフ倶楽部のレディース・チャムピオンシップに八八の記録でみごとに優勝した。東京婦人ゴルフ倶楽部はこの翌年に結成されているから、西村夫人の優勝はいわば、日本婦人として最初の公式選手権の栄与に輝くものだった。しかも、同夫人は当時西洋婦人ゴルフヤーの中にあってもハンディキャップはスクラッチで、稀にみる天才女流ゴルフヤーであった。このほか九鬼さん

もハンディ七で、シングル・プレイヤーとして西村夫人

につづき、山口さんは一四、野田さん一六、九鬼とみさん一八で、ともに西洋婦人と比べても上位の腕前だった。

当時の婦人ゴルフファーストは世間から「生意氣だ」とののしられ、「有閑夫人のひまつぶし」とぼろくそにいわれたものだが、それ以上に困らされたのは洋服だった。洋服の日本婦人がほとんどいないうえに、洋服を買いにいっても着かたがわからない。婦人洋服屋も神戸に数えるほどしかなく、トア・ロードのエスター・ニュートンとレインクルフォードと大丸の近所にもう一軒あったレヤア商会ぐら이었다。「洋服をかうお世話をして、芦屋の野田さんのお宅まで着つけにいった、はじめて青木のゴルフ場まで一緒したものです。やっと着つけをすましてさっそく赤ん坊にお乳を飲ませたことを今でもおぼえている。洋服であんなに苦勞するより、いっそのこと日本女性にはモンペでゴルフをしたらどうだろう」と、よく思ったものです」とは、西村夫人の当時への述懐談である。もう一つ婦人ゴルフファーストが困らされたことは、六甲山上でプレイをする場合、水が乏しいことだった。婦人用のクラブ・ハウスこそ作られていたが、プレイがすんでからからだを洗おうとしても、木の風呂桶に水が十センチほどしかたまっていないことだった。また、婦人のかぶっていた帽子が大き過ぎて、振ったクラブの先が帽子のへりに当たることが多かったことも、ちょっとした悩みだった。

さて、このようにして関西婦人ゴルフ倶楽部の会員はしだいにふえて、一九二七年ごろには上流婦人の会員が三十名近くにもふえていた。同時に、婦人同士の試合の数もどんどんふえていった。なかでも、西村夫人の実力ははずば抜けていた。第一回六甲婦人選手権獲得後、次のような成績で、実に五連続優勝というすばらしい記録を樹立した——一九二六年(大正一五年)度、八一(四〇、四一)、一九二七年度、七八(三五、四三)、一九二八年度、八七(四三、四四)、一九二九年度(八四)——しか

も一九二六年の時六甲の一七番ホールで、ホール・イン・ワンをきめたのは、日本婦人として最初であった。むろん、これには偶然性も大いに手伝っていて、西村夫人自身も、「ホールにはいっていった球をキャディが見つけてくれるまで、どこへ飛んだのだろうと他の方ばかり探したものです」と語っているぐらいである。だが、日ごろの実力によるよいショットによらねば、こんなすばらしい結果を生むことは出来なかったにきまつている。同倶楽部内だけでなく、東西婦人対抗試合でも、西洋人をまじえた国際試合でも、各会員の活躍はめざましかった。まず、東西対抗戦は一九二六年夏東京駒沢ゴルフ場で行なわれ、関西側は惜敗したが、東西ナンバー・ワン同士の三井夫人と西村夫人の試合は白熱化したものだった。翌年の第二回戦は茨木コースで行なわれて、六対六の引き分けに終わったが、このシングル・マッチにおいて、両夫人はまたもハッスルした戦いぶりを演じ、十番でオールスクエア、最後の十八番グリーンで三井夫人が惜しくもパットをミスして、一ダウンで敗れた。第三回戦は八対一の成績で関東側が大勝したが、この時のシングルでは、三井夫人が西村夫人に勝って前年度の雪辱をとけている。第四回は六対五をもって関西側が初優勝をとげたが、今回はついで三井夫人が出場しなかったため、両夫人の決戦をみることはできなかった。一九二九年度国際試合のはしりは一九二六年の六甲コースにおける関西女流ゴルフファーストと外国婦人ゴルフファーストの一戦だったが、七対五で日本側が勝ち、関西レディース・ゴルフファーストの意気さかんなところをみせたものだった。戦後もしも早く関東にさきがけて昭和二十九年十月に第一回関西女子ゴルフ選手権が宝塚コースで参加者三四名のものに行なわれ、宝塚ゴルフ倶楽部の阿座上秋子夫人が優勝した。昔とは比較にならぬほど自由な空気のなかで行なわれる今日の婦人ゴルフファーストたちのびのびしたプレイを、多大の感動をもって眺める人も決して少なくはないだろう。

わんぱくざかり江戸日記

東京よいとこ

伊達俊太郎



「恋の都、花の都、夢のパラダイスよ、ばらの東京——むかし、まだ、ぼくの父と母が恋仲であったころ（むろんぼくが誕生するかなり以前のことである）そんなはやり歌が、やたらに、町のあちこちで人気を集めたという。」

仙台に引込んで暮らしているおやじとおふくろが、先日、ぶらりと息子との棲息状況を調べに上京してきたが「こんな騒々しい町に長居は無用」と早々に帰っていった。慈愛深きおふくろは、別れのホームで、たったひとこと。「自動車にひかれなさんなよ」おやじがあんまり首都の悪口を並べたので「そんならむかしの東京はよかったのか」と聞いてやったが、白髪翁、少し考えて「いやく「そういや、俺たちが若かったときだって、あんまりよその町よりいいなんてものはなかったなあ。簡単に芝居がみられた点ぐらいだったろう」そのころとて夢のパラダイス」なんてしろものではなかったらしい。

だが、三十年過ぎたいまでも「可愛いあいの娘は東京

に行っちゅち」なんて歌が流行している。ほんとにいいかげんにしてくれといいたくなる。

◆ 全国津々浦々から東京見物にやってくるおのぼりさんの数が、年間でどのくらいになるのかはちよつと見当もつかないが、団体客のコースは大体きままっている。料金によつては赤坂のナイトクラブなんかをちらりとぞかせるものもあるらしいが、たいていは皇居と明治神宮と靖国神社をお参りしたあと国会議事堂で郷土出身のセンセイたちにごあいさつというコース。東京タワーを見上げるほかは、どこでも頭を下げつ放しらしい。やたらにバスで引回されたあぐくにやつてきた議事堂で「やつぱり百円札の絵とおなじやなあ」と感心したおばはんがいたという話を聞いたおぼえがある。いずれにせよ、あまり寿命のばしに役立つ観光コースだとは思えない。

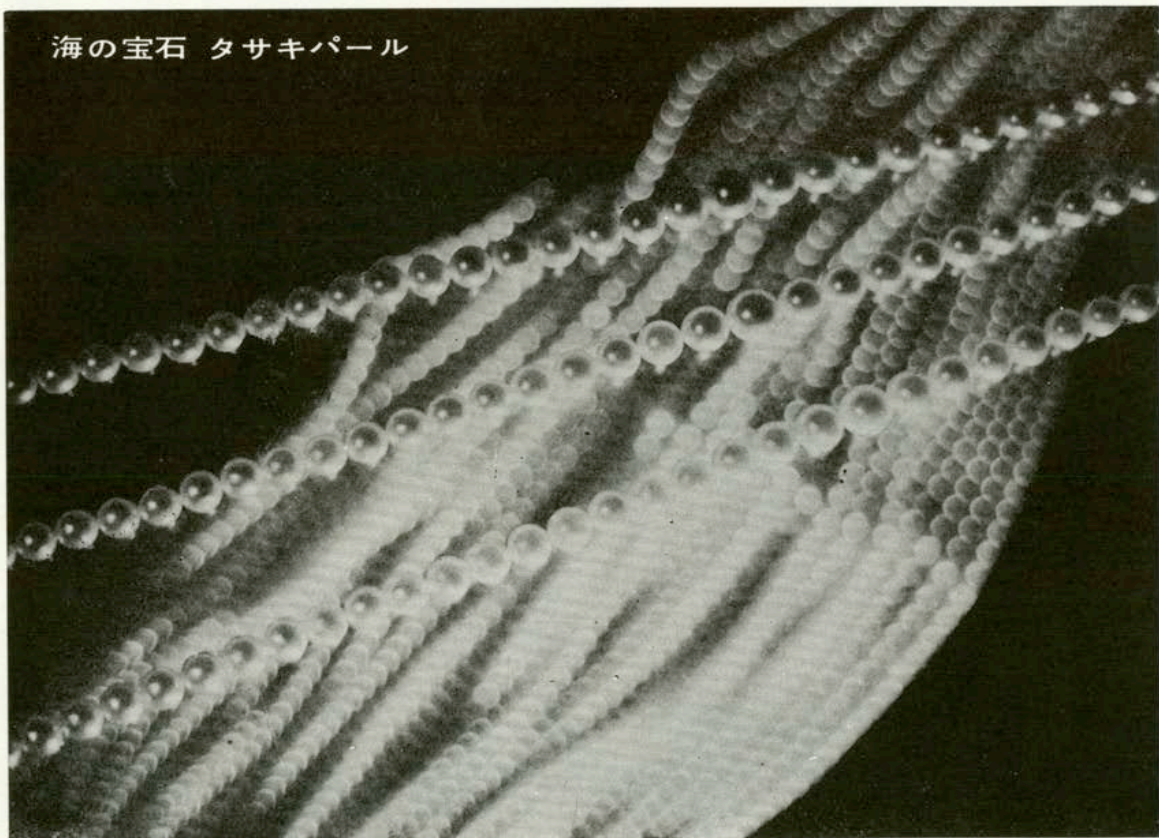
いまはオリンピックを前にして、いたるところで、大工事を行っている。友人の話では、道をたずねたら「あそこ地下鉄工事を右に曲って百メートルほどいくと水道工事をしている。そこを左に折れてガス会社の工事現場の手前の道を右に進むと電話線工事をしている。そこから建設中の高速道路までのところがコウジマチ（麴町）だよ」と教えてくれたという。そいつの創作にしてはできすぎだから、どうせ寄席あたりで聞いたおとし話にちがいない。しかし、ことほど左様のありさまだ。ただでさえ騒々しい町がこの調子なのだから、まずこれからは音楽家が育つようなことはあるまい。

◆ 夏はイモの子洗うような湘南の海水浴場。冬は上越の雪を求めて新宿駅0番線ホームに前夜から泊りこんで列車に乘込む順番を争う——バカンスだって楽ではないのだ。第一、キヤッチボールひとつでできる遊び場がない。祭になると、オート三輪が荷台におミコシをのつて、駐停車ならびに右左折禁止、一方通行の町内をたよたとかけ回る土地柄だ。ましな子どもが育つだろうかと、他人事ならず気にかかる。にもかかわらず「息子の教育のために、主人を残して東京に出て参りましたんでござあますのよ」などとぬかすキチガイはばあもまだいるのである。

やつぱり海あり山ありの神戸はいい。もし「わたしも東京に出てってバカンスを楽しみたいわ」などという神戸の女性がいたとしたら、これも、キチガイばあと同じ罪だ。

（おわり）

海の宝石 タサキパール



銀座 — 神戸 — 長崎を結ぶ高級真珠専門店

田崎真珠店

神戸店	三宮駅前・秀品店
銀座店	東京・銀座西四丁目
ヒルトン店	東京ヒルトンホテル

みなと神戸にも冷たい秋風が吹き初めました。風はい
たずらっぽく頬をなでて行きます。そして、風になびく
スカーフはとても魅惑的で美しいものです。

今月はスカーフのおしゃれについていろいろとあなた
にお話してみよう。

スカーフには「防寒用の衿巻」と「おしゃれ」の二種
類にわけることが出来ます。でも、多くの人は冬になれ
ばスカーフをしなくてはならない、スカーフは冬のもの
だといった考え方をもっていらっしやる人が多いよう
ですが、スカーフで季節にとらわれないおしゃれを楽しん



Winter Scarf

おしゃれなスカーフ

福 富 芳 美

でいただきたいものです。

最近の若い人はスカーフのあつかい方が大へん上手に
なってきたようです。神戸のような都会では田舎と
ちがって、暖かさを目的とするスカーフだけでなく、防
寒、プラス、おしゃれのアクセサリになればいいと思
います。

スカーフは外国に比べると日本ではうんと種類も多く
柄も豊富に出廻っています。スカーフの種類といえ
ば、豪華なドレッシイな絹、サテン、薄くはりのあるシ
ュラ、デシン、実用的で暖かいジョーゼットなどがあ

れるでしょう。

いろんなスカーフのなかから選ばれる時、洋服にマッ
チしたものを選ばれると、そのちよっとした心使いがあ
なたの装いの美しさを引立ててくれるでしょう。また、
コート、スーツなど着ているものとの色のコントラスト
をよく考えてみる事です。素晴らしい色や柄だといっ
てスカーフだけにとらわれすぎて、スカーフを選ぶことは
間違いです。

あなたのお顔にあっているかどうかをよく確認してから
スカーフを選ぶことも一番、大切な事です。忘れな
いようにしましょう。

そうすれば、そこにあるからスカーフをするといっ
間違ひは防げるはず。そして、スカーフはその使
かた、かぶりかたを工夫なさることです。自由な気持
でスカーフを生かした美しい装いを考えてみましょう。

おしゃれなスカーフのヒント

* スカーフを前に結び、ボウのようにしてみるのも若
い人にふさわしいでしょう。

* 横に結び蝶々むすびにする可愛いあつかい方。

* 七色のジョーゼットを揃え、色ちがいの二枚をあわ
せてみたり、つないでみるといった楽しいコントラ
スト、これはあるタカラジェンヌのアイディアなの
ですが若さがあって印象的でした。

* ウールのタータン・チェックを生かしてスカーフと
スカートをそろえるのもいいでしょう。

* 若い人達にはアンゴラやリングヤーンで編んだス
カーフなども、暖かくて、しゃれたスカーフです。

* スカーフに刺繍なさるのも可愛いでしょう。

パリジェンヌは原型のドレスにいろいろなスカーフの
あつかい方を工夫して、装いにヴァリエテイをもたせま
す。『スカーフで洋服を着る』と言っていいくらいで
す。神戸っ子のあなたもスカーフでこれからの季節を楽
しみましょう。

(神戸ドレスメーカー女学院長大丸顧問デザイナー) 談

ヨーロッパからのプレゼント



婦人帽子

マキシソ

神戸・トアロード 東京・銀座3-2
TEL ③6711-3 TEL (535) 5041



美しさを創る...

アスター・ニュートン

トア・ロード③1818



SE-2300

現金正価 / 49,800円
月賦定価 / 52,300円

ARTHUR GRUMIAUX
RECITAL



PHILIPS

STEREO

ANDRÉ CAMPA

MESSE DE VILQUEM A GRAND CHOEUR ET SYMPHONIE

WITH SAUL JOSELYNE CHAMOUN, SOPRANO

GRAND BEAUMONT, JEAN-PIERRE STRAUSS, TENOR

SAUL JOSELYNE CHAMOUN, SOPRANO

SAUL JOSELYNE CHAMOUN, SOPRANO

LOUIS FREMAUX, CHAMOUN, JEAN-PIERRE STRAUSS, CHAMOUN, CHAMOUN



RAY CHARLES
MODERN SOUNDS
in COUNTRY
and WESTERN MUSIC
VOLUME TWO

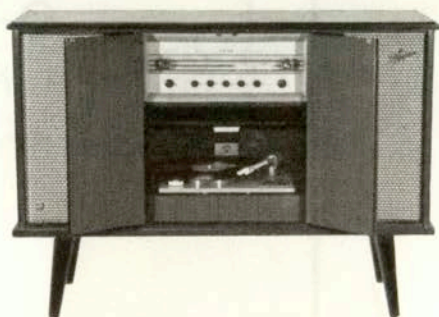


世界の〈音〉を
リードする
ナショナル技術の結晶！



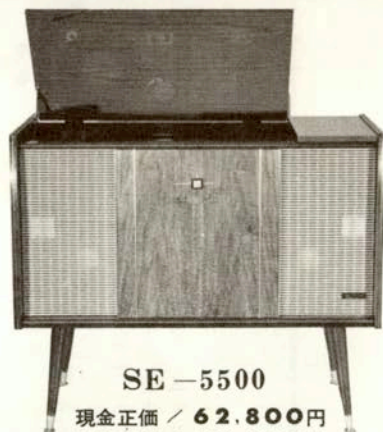
松下電器産業株式会社





SE-3300

現金正価 / 67,800円
月賦定価 / 71,200円



SE-5500

現金正価 / 62,800円
月賦定価 / 66,000円

**サジョナル
スーパーステレオ
ステレオ**



呉作陳磯
 みよーや

神戸 大丸 前
 電話神戸(3)三三八八〜九番
 大阪店 阪神百貨店三階
 電話大阪(361)五五四八番
 姫路店 やまとやしき百貨店三階
 電話姫路(23)一二二一番
 衣裳部 三宮町三丁目柳筋
 電話 ③ 五一六五番

O-SHIBATA
 柴田音吉洋服店

神戸・元町通4丁目 神戸 4-0693
 大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

